

平成29年度 第9回小平市農業振興計画検討委員会 会議要録

1 開催日時及び場所

日時：平成30年1月30日（火）午後1時から2時30分まで

場所：小平市役所 5階 504会議室

2 出席者

(1) 委員

6名（竹内委員、田澤委員、野地委員、松澤委員欠席）

(2) オブザーバー

滝澤地域振興部長

(3) 事務局

市：産業振興課 板谷課長、増原課長補佐、石田係長、鎌田係長、飯泉

多摩信用金庫：地域連携支援部 沼崎調査役、鈴木、松田

首都大学東京：都市環境学部 太田特任助教、URA室 中西主幹URA

(4) 傍聴者

1名

3 配布資料

資料① パブリックコメントの結果について

資料② 農業振興計画案

資料③ 今後のスケジュール

4 内容(議事要旨)

(1) 議題

農業振興計画案について

事務局から資料①および資料②を用いて、パブリックコメントの結果と農業振興計画(案)について説明した。

(委員長) 今の説明について、質問や意見はあるか。

(委員) パブリックコメントのNo.10について、「高品質といえる野菜の根拠の説明が必要ではないか」ということに対して、料亭や高級レストランなどを相手に高収入を得ている人もいるという例を挙げているが、料亭は減少傾向にあるし、多くの農家が継続的に高級レストランや料亭に近い割烹店に納品することは難しいのではないかと。例示としてはどうかと、気になる。

(委員) 一部の農家はレストランなどに納めているが、小平の農業の稼ぐ力として計画案で挙げられているのは、直売所の適正配置や学校給食である。これが農家の重要な販売経路となっており、それを支援することが農家収入の増加に繋がるということが書かれているので、高級品をというより、直売や学校給食への納入を入れた方が良いと思う。

(委員長) 分かりました。例示がもっと小平の現状に対応するように、別の例示の仕方で高品質という事をかけないか、という事か。

(委員) 小平市は地産地消で押しているんで、あまり料亭などに納めるというところを前面に出すよりは。あと、やはり野菜は今日も足りない状況なので。地産地消の、庭先直売所は確かに商圏は狭いが、共同直売所や給食に納める生産を増やしていく、そこで所得を上げていくというイメージがある。

(委員長) 分かりました。

(委員) 高品質なものを作れば、自ずと高級レストランでも食べられるのだという事だと思うが、高品質な産品を生み出す支援策、振興策はどうか。行政は継続的に個人を支援するサービスを続けられないので、方向性を誘導する、勧める、提案するという事だと思う。

(委員長) 小平の農産物の特徴としては、新鮮で安全で、そして消費者が求める農産物がすぐに手に入るというようなところだ。委員が言うように、地産地消、学校給食であるとか、あるいは直売所などを支援しながら稼ぐ力を。そうすると市民も同じように、直売所あるいは学校給食で安全で美味しい、新鮮な野菜が得られると。だから高品質であるという風に。

(委員) 直売所で売っている野菜が高品質かそうでないかという、高品質である。だから高級レストランで使用するの、形や規格が揃っているものである。高級レストランと高品質を結びつけてしまうと、直売所は高品質ではないと言っているようになってしまう。

(委員長) これについては改善や修正は可能だと思う。可能か。

(事務局) 明らかに不適切な表現だと、検討の余地がある。

(委員) 高品質は良いが、あえてここで料亭や高級レストランというのはいかがか。

(委員) 料亭というのだけ、外しても良いのではないか。

(委員) ちょっと違和感がある。

(委員長) 最低限料亭を外すとか、あるいはもう少し消費者、直売所とか学校給食などと並列に高級レストランという様に少し表現を変える。

(委員) それからNo.24の「6次産業化の目的は販路開拓ではなく、消費者にとっての新価値創造、価値の提案である。誤った認識による施策の立案が目立つ」という提案について、6次産業であれば、ワイナリーをやっている方のように、自分で生産して、熟成して、プライベートブランドを付けて色々ところに販売するというような例を見ると、小平の6次産業化はちょっと遅れている。6次ではなく、4次、3次産業でも余地が残っている。従って、消費者にとっての新価値の創造、価値の提案というのは何かという事に対する回答あるいは説明が色々ところに分散して答えているように思うが、何か提案を取り入れる事はないかと思う。

1次産品を加工したり、レシピを付け加えたり色々工夫ができるが、生産者がやるのはちょっと荷が重いのではないか。農業者と消費者の間に、第三者が活躍する場面が今後は必要ではないか。私はNPOが良いのではないかと思う。そうすれば企業的農業経営の推進に近い気がする。

(委員長) 市の方の答としては、計画案の異業種との連携プログラムで、6次産業化と市内飲食店との連携など、既に色々な施策を散らしているの反映しないということだ。

委員が言われたことは、当然もっともだと思うが、指摘のとおり、多くに散らばっているの、分かり難いかもしれない。もう1度検討してみて、まとめられればまとめる。

(委員) No.27について、KPIというのは一般市民が読んでも分かるのか。また生産緑地の増減率ではないかということだが、農地面積の90%近くが生産緑地であるから農地面積を指標としているという説明だが、そうであれば、施策の項目を農地面積にしたらどうか。

(委員長) パブリックコメントでは、農地面積ではなく生産緑地面積の増減率にするべきということだが、市としては農地面積に占める生産緑地の面積が比率が高いので、農地の増減率を入れた方が良いのではないかということだが、市のいう事は理に適っているのではないかと思う。

KPIについては58ページに書いてある。書いてあるが、もう少し分かりやすく。

(委員) 用語解説に入れてはダメか。ちょっと趣旨が変わってしまうか。

(事務局) KPIという言葉は市の別の計画でも出てくる。ただ、知らなくても不自然な言葉なので、用語解説は農業関係の用語解説なので、浮いてしまう事も考えられるので、何らかの形で説明する。

(委員) 英語で略さずに書いておけばよいのでは。

また、No.30のプロダクトアウト発想でマーケットイン発想が欠けているのではないかという点について、確かにプロダクトアウト、いわゆる生産面での発想が多い。マーケティングの構築や拡大の計画は少ない。売れてこそ、これからの都市農業がある訳だから、マーケットの発想は1番大事だ。しかし、行政として振興策をまとめるにあたって、具体的にこうすれば高収入になるという個別的なものはなかなか提案しにくいと思う。だから、いろいろなところに拡散して書いてある訳で、これらを総合的に着実に実行していけば、マーケティングの拡大や収入増に繋がると読んでいただければいいのではないかと思う。指摘はそのとおりだが、まとめる立場としては限界があると思う。提案としては、ありがたく拝見した。

(委員長) 前回の農業振興計画(第二次都市農業基本構想)は、やはり生産者の立場の方で作られた計画で、今回の計画については、ある程度それをベースにしながら、前回よりはマーケティング要素を盛り込んでいるつもりだが、まだまだ足りないという指摘かと思う。そういった事はまた今後の課題という事になるかもしれないし、検討する余地があれば検討していきたいと思う。

その他に、何か全体を読んで意見はあるか。

(委員) 農のあるまちづくりのための施策で、直売所の事が書いてあるが、「直売所の分布は一定ではなく」という事で、これは個人直売所を指していると思うが、その下に「市内に立地する農産物直売所の適正配置」という事なのだが、個人直売所の適正配置はできないと思うので、これは共同直売所を言っているのかと思う。現在ファーマーズ・マーケットは市内に1カ所だが、西と東に共同直売所を適正に配置するという文章か

と思った。

(委員長) 適正配置という所は個人直売所を指しているが、指摘のとおり、今まで空白の地点に共同直売所なり、移動直売所なりを配置してはどうか、という提案になる。

(委員) この文章だと、個人直売所というイメージだと思う。はっきり共同直売所とかみんなの直売所のような方が言葉としていいと思った。

(事務局) 直売所の適正配置を受けて、次ページに農産物直売所の適正配置プログラムを掲載しており、そちらで具体的な内容を上げている。そこで、共同直売所や個人直売所が対象となるもの、移動販売やマルシェを検討するというような形になっている。

委員が言うように、誤解する人がいるかもしれないので、誤解のないように検討したい。

(委員長) 他に全体の感想でもご意見でも結構です。

(委員) 今、直売所の話が出たが、1月20日に公民館前に臨時直売所が設置されて大勢の人が買いに来た。安くてきれいな野菜が販売されていて助かった。

ボランティアに保険をかけるという話載っているが、後継者をつくるためにも、農業の経験をする上でも、大変良いと感じた。ぜひ実現できたらと思う。

(委員) パブリックコメントは本当によく見ていると思う。非常に農業に対して関心がある市民、団体が多い。1月21日にルネこだいらで小平の農業がどうなるのかというシンポジウムをやったところである。定員が80名のところ、100名以上の市民の方が来ているという事で、本当に小平の農業について、多くの方が関心を持っていただけているということは、農家としても本当に身が締まるというか、ありがたく思っている。

(委員) 全体的に消費者目線で分かりやすくと思ってやっていたが、このパブリックコメントの意見を見ると、分かりやすくやったつもりでも、市民に伝わりにくいのか、それくらい丁寧に書かないとなかなか分からない、分かってももらえない所があるという事だ。その辺は、上手く反映されるには、なかなか市民目線になってやるというのは難しいと感じた。

(委員) かなり散らばっているが、要はこれからの小平の農業が都市農業として、計画書にあるように地産地消を目的として、6次産業化が非常に有効だと思っているが、6次で終わることなく、さらに大きな発見が出て、それによって小平の都市農業にとっての収益拡大の道が開けると思う。それは、また違う機会の振興計画や、この計画の具体的な活動のところで活かしていけばよいと思う。

やはり、農業収入を上げなければ始まらないことで、農家が元気になれば地域住民も恩恵に与れるという事だと思う。ますます都市農業に対する、いわゆる地産地消に対する期待というのが膨らむのではないかと思う。そこで、都市農家の収入増をどうしたら図れるかという、やはり市民の協力を得るということだ。農家と市民の音頭をとるのは、やはり行政が裏からバックアップしていくと目的達成に近づくかと思う。

(委員) 1年関わっただけだが、良くできているかと思っている。直売所の適正配置の話だが、以前、直売所のマップが3団体ぐらいから出ていて、一目瞭然で全部でているのかということをよく聞かれた。どこに何があるかそれぞれの団体で作っているが、網

羅してあるものではなく、定年後細々とやっている方はなかなか載っていない。そういうものも網羅できれば、どこに直売所があるのか、多少遠くても安いところとかが分かるものが作れるのなら、無理にマルシェのようなものを作るより手っ取り早いのではないかという気がする。また、営業時間が特に分からないということで、午前中しかやっていないよ、とか、1日やっているよといった区別もあれば本当に良い。各個人なので難しいとは思いますが、そういう情報発信の方が、早く市民に届くのではないかと考えている。

(委員長) 私も時々直売所を利用している立場から言うと、なかなか意外なところに直売所があったりするので、驚いたりする。直売所の分布図がどこかに掲載されているが、これは私が作成したもので、歩いて点を打ったものだが、マップにのっていない直売所もあると思う。

パブリックコメントで生産緑地に関するコメントがあり、生産緑地もこれからの小平の都市農業を考える上で重要なことなので、お手元に緑の冊子を配布しているが、生産緑地の状況について事務局から説明を。

事務局から、配布資料を用いて、生産緑地制度の動向について説明した。

(委員長) 今言ったように、都市農地は色々な制度に左右されていて、農業振興計画も変わってくる可能性もあるが、流れとしては最新の制度にも目くばせしながら見ていく必要がある。これについて質問等はあるか。

(委員) 団体等に入っていて今まで生産緑地指定制度について聞いている人はだいたい分かってきたと思うが、団体にあまり入っていない人で、農協や市役所にあまり行っていない人は、納税猶予と生産緑地制度がごっちゃになっていて、相続時に納税猶予を受けたから、終生、生産緑地がついてくると考えている人もいる。特定生産緑地指定について自分は別だと考えている人がかなりいるので、その説明をしていかないと、後で聞いていなかったとなると思うので、周知を考えていただきたい。

(事務局) 周知の方も、都市計画部門と、農業委員会も周知は徹底して、全員が知った上で動いているという状態にしたいので、来年度以降、まずは1年くらいは今やっている座談会、これも拡大して各地区へ出向いて説明することを考えていて、徹底するという事を考えています。

(委員長) この計画の中でも、新しい制度については周知を徹底するというようなことが書いてあるので、さっそくやっていただければと思う。他に質問はあるか。なければオブザーバーから。

(オブザーバー) 2年間熱心な議論を本当にありがとうございました。今、スーパーマーケットで野菜が非常に高くなっているが、ファーマーズ・マーケットを覗くと安定的に非常に安く、新鮮でおいしい安全な野菜が地域に供給されているところが見てとれる。市民の皆様、小平の地産地消を広く知っていただくように、市と致しましても向こう10年間のこの計画をしっかり進めて参りたいと考えている。

(委員長) 今日、皆さんのご意見を色々伺い、また、パブリックコメントでも色々意見があ

った。これから1か月くらい検討期間があるかと思うので、意見を反映しながら修正して、来月の終りには市民の皆さんに公表して、分かりやすく、なるべく理解していただけるような、小平の都市農業が愛される様な、そういう計画を作って参りたい。修正を加えた上で、市役所内の会議を経て、今年度中には計画の完成版を公表したい。

(2) その他

今後の日程等について

事務局から、資料③を用いて、今後の日程等について説明した。

(事務局) 本日が最後の検討委員会で、これまで委員長副委員長に会議をまとめていただいた。委員長から最後に一言いただきたい。

(委員長) 皆さんどうもありがとうございました。2年間だが、最初の1年目は高橋副委員長に助けていただいて、今年は竹内副委員長に助けていただいて、まだまだ不十分な点はあるかと思うが、市民の目線に立ったようなこの農業振興計画、あるいは先ほども言ったが、市民に愛されるような都市農業が確立できる、そういう振興計画を作りたいと思っており、なんとなく出来たという風に思っている。これも一重に皆様のお陰である。これから、この計画を農業者の皆様、あるいは農協さんとか市民の皆さんと一緒に実行して、小平の農業がますます発展することを願う次第である。ありがとうございました。

それでは、本日のこの委員会をこれで終了する。

以 上